



はぐくみ



学校だより
令和5年1月15日 第9号
那覇市立識名小学校
校長 工藤 直也

2学期後半もよろしくお祈いします

令和6年、2024年がスタートして10日ほどが過ぎました。新年のスタートは同時に2学期後半のスタートでもあります。2学期後半は、令和6年の始まりと令和5年度のおわりに向かう大切な時期となります。学校においても子どもたちにもその意識をもって学校生活等を送るよう指導して参ります。ご家庭においても声かけをお願いします。



写真のお正月の花は学校ボランティアの黒美智子さんに生けていただきました。黒さんには毎週、事務室横のお花コーナーを季節のお花で飾っていただいています。

2学期後半初日、1月5日の朝会では、次の2つの話をしました。

①「もしも」のときに備えておきましょう

1月1日に石川県能登地方を襲った地震について話をしました。多くの方が犠牲になり、今もなお、避難生活を余儀なくされている方がたくさんいらっしゃることに心をお寄せ、1日も早く、元の生活に戻ることができるよう願ひましようとお伝えしました。その上で、あらためて災害への備えの大切さについて話しました。学校においても、自然災害、火災、不審者侵入等に対応するための避難訓練を実施しています。また、避難訓練の機会等に合わせて、自然災害から命を守る行動等について確認もしています。災害や事故にいつ遭遇するかは、誰にもわかりません。学校内外において、災害時等に迅速な行動がとれるよう、各家庭においても話題にしてください。

②地域を知り、地域に誇りを持ちましょう

昨年末に、繁多川地域を取り上げたテレビの放送が続いてありました。その放送の中で、繁多川公民館を中心とした、繁多川地域における人々のつながりや、地域の歴史や伝統などが紹介されていました。

番組では、一人ひとりが地域のたねというタイトルのもと「子どもにも生き物にも居心地のいい環境」「楽しみながら助け合う居場所」「繁多川の水と歴史道」「ちむぐくるある島くとうば」「繁多川思い出の味」という内容で番組が制作されていました。放送では、繁多川公民館の職員をはじめ、識名っ子をいつも見守ってくださっている識名小サポーターのみなさん、識名小の学習活動をゲストティーチャーとして支えていただいているみなさん、クラブ活動をサポートしていただいているみなさんなどが多数登場していました。子ども達にもそのことを伝えると同時に、多くの地域の方々を支えられ、素晴らしい環境の中で学校生活や家庭生活が送ることができることに感謝し、しっかりと目標をもち、そこに向かって努力し、成長していくことを期待していると伝えました。

新春書き初めの様子

新年の決意を新たにし、学習や生活に意欲を持たせることなどをねらいとして、各学年で書き初めを行いました。1、2年生は硬筆、3年生以上は毛筆で行いました。作品の展示もしていますので、授業参観等でお越しの際にご覧ください。



子ども達それぞれが自分の手本を見ながら真剣に取り組む様子

水産教室「なはまぐろ」

1月10日（水）にチャレンジ学級の子も達を中心に水産教室を開催しました。当日は、那覇地区漁業協同組合の方にマグロの種類やマグロ漁について説明していただいたあと、水産業者の方によるマグロ解体を実演していただきました。

この水産教室では、那覇の泊港で水揚げされるマグロが「なはまぐろ」ということや、船で2,000 km以上離れた南洋まで行って漁をすること、延縄（はえなわ）漁では仕掛けをつけた縄を、60 kmにも渡り海中に下ろしていくことなどを学びました。



マグロの説明を聞く様子

説明しながら解体する様子

心と体の健康教室

1月11日（木）5年生を対象に、「心と体の健康教室」を行いました。講師に、思春期保健相談士の徳永桂子先生をお招きし、講話をしていただきました。徳永先生は、3歳から性教育を始めようと提案して、幼稚園から大学、助産学科などの専門学校で性や体についてお話をしています。正しい知識を早い段階でしっかりと身につけて、自分の体について学べば学ぶほど、自分の体を大切にしたいという自尊感情が育つようになるとしています。



手作りの人形を使って体について話をする様子